



三郷市文化財サポーター会報

# 時の階

きざぎざはし

三郷市立郷土資料館企画展示

さかのぼり三郷

—平成の三郷をふりかえる—

開催されました

去る令和元年12月14日(土)から

令和2年3月1日(日)まで、平成約

30年間をふりかえる企画展示「さか

のぼり三郷 —平成の三郷をふりか

える—」が開催されました。

展示では、現在は統廃合された北

郷小学校、瑞沼小学校、さつき小学校

などの懐かしい姿や、平成の三郷を

語る上で欠かせないつくばエクスプ

レスの開通に関する資料が紹介され

ました。

文化財サポーターは常設展示の撤

令和2年春号  
(第8号)

令和2年3月30日発行  
三郷市文化財サポーター代表  
発行：記録広報担当・生涯学習課  
事務局：生涯学習課  
048-930-7759

収作業や、企画展示に使う資料の設  
置・微調整などを事務局とともに  
行いました。



また、1月下旬には文化財サポ

ーターと事務局で企画展示の見学会を

実施しました。当時世界一上下線ホ

ームが離れた駅として名の知れた新

三郷駅や武蔵野線を使って通勤した

思い出や、三郷市へ転入した当時の

話などに花を咲かせました。

また、郷土資料館での企画展示「さ

かのぼり三郷」に先立ち、令和元年

10月16日(水)から10月31日(木)

まで、さらほつと三郷で「さかのぼり

新三郷 あの時、君は……」と題して、

新三郷の平成のあゆみに焦点をあて

て振り返りました。

新三郷駅やららぽーとがある新三

郷ららシティは、貨物列車を行き先

ごとに仕分けする、広大な敷地をも

つ武蔵野操車場の跡地に建てられて

います。

空から見ると操車場の敷地の形を

確認することができます。展示では

操車場がまだあったころの航空写真

と、現在の新三郷ららシティの航空

写真とを見比べられるように展示し

ました。



# 郷土資料館常設展示 解説マニユアルを作成しました



的に活用していきたいと思えます。  
※団体見学などで展示解説を希望される方は、事前に生涯学習課まで連絡をお願いします。

今年度の団体見学  
(小学校社会科見学等)

郷土資料館…3団体  
講堂記念館…3団体

またきてね!

展示はただ見るだけではなく、耳からの情報が加わったり、実際に手を動かしたり五感を活用することで、より理解を深めることができます。

その第一歩として、事務局や文化財サポーターが来館者の方へ展示解説をすることができるよう、展示解説マニユアルを作成しました。今後、展示替えなどに合わせて解説も充実させていきます。

小学校・一般の方の団体見学や、土休日の来館者へ解説するときに積極



米作を代表に、農業を主要産業としてきた地域では、豊作を祈るなど自然への感謝・信仰の意

がこめられた様々なお祭りが行われます。大多数の住民が農業を生業としていた三郷市域でも、こ

ういったお祭りが昔から行われていました。担い

手不足などで全国的にお祭りがなくなっていく傾向にあるなかで、三郷市

では今も地域ごとに多くのお祭りが四季を通して

行われています。田植えがひと段落した6〜7月は多くのお祭りが行われる時期のひとつです。

三匹の獅子舞や大般若経祭などの市指定文化財のお祭りや、神

輿がでて地区内を廻るお祭りなど特色のあるお祭りがたくさん行われています。

これら多くある夏のお祭りの日程

暮らの中のお祭り

～夏のお祭り～

今年度の夏祭りの日程表を配りました

担当した文化財サポーターから日程表の作成について伺いました。

\*\*\*\*\*

三郷市立郷土資料館では、市内のお祭りをビデオとパネルで紹介しています。現在分かっている祭りの数は年間54ヶ所にのぼります。

令和元年の夏祭りの開催日を明確にすべく、各社務所に電話しました

が不通、訪問しましたがすべて留守でした。近所の住民から町会長をきいて尋ね、8ヶ所の開催日が分かりました。今まで3日間開催していたのが1日に縮小、また夜間だけの開催に留まるところもありました。

お祭りにはその地の歴史が織り込まれています。市民の心よりどころとして是非残していきたい行事と

思っています。

(相徳)

# スキルアップ！ 古文書勉強会

文化財サポーターの活動のひとつに、市が所蔵する、または市内の方から借りた古文書などを調査し、整理する活動があります。現在整理にあたっては古文書の多くは江戸時代から明治・大正に作成されたもので

す。当時の人々が書いた文字のほとんどは現在私たちが書く楷書体といわれる読みやすい字ではありません。書道で書くような行書・草書体にかい、筆の流れにそった、ミミズがはったような形の文字で、俗に「くずし字」とよばれています。

「くずし字」は見慣れていないと、とても読みづらく、何を書いてあるか全くわからないこともしばしばあります。私たちと同じ文字を本当に使っているのかと疑いたくなつてし

まうほどです。

それでも、文字に慣れ、文字の書かれ方の規則や背景を知ると、だんだん読めるようになっていきます。

文化財サポーターでは有志が集まって、自主的に勉強会を行い、古文書の読解能力アップを目指しています。ここで、活動を引っ張っていただいている文化財サポーターのお二人に活動について伺いました。

\*\*\*\*\*

文化財サポーターとして郷土の歴史を学ぶ必要を感じ同志の仲間と古文書の勉強を始めました。くずし字で書かれたものが多く、その解読と一緒に考え教わりながら進めるうちに、仲間意識も高まってきました。

初心者用の素材で、皆の関心が高いものを探しました。また、勉強していくためには正しい現代文がついているものが必須で、それにはNHKのテキスト、ネットの講座や他所の講座などから選び、やがて市の「葦の

みち」の歴史民俗講座を多く取り入れるようになりました。紹介されている古文書は読み下し文、言葉の解説がついているので、自主勉強するための条件を満たしていました。

にあるか改めて見直すことができました。

\*\*\*\*\*

この歴史民俗講座に選ばれた古文書には、水害に関するものが圧倒的に多く、この地が過去に多くの水害に見舞われたことや、村人の苦勞を具体的に知ることができました。また二郷半領の地が関東の地形の中で

最近では埼玉県立文書館のホームページに掲載された古文書を題材としています。古文書を理解するには、文字を読むだけでなく、時代背景や社会制度を知ることが必要です。古文書の読解力は容易に向上できませんが、終了時の古文書に関するフリートークを楽しみに、今後も続けたいと思います。

(志子田)



また二郷半領の地が関東の地形の中で



# 市内の資料に触れる

## 古文書整理

三郷市には市の歴史を伝える貴重な古文書がまだまだたくさんあります。その多くは市民の方の物置や蔵など開かずの間と化している場所にももれていることが実に多いのです。

今年度は市内3家が所蔵している

古文書について整理しました。今回

整理した中で大きな茶箱に入っている古文書は、以前一度調査したこと

のある古文書ですが、脆弱な素材である紙をより長く保存することができ

る方法に変更して再整理しました。私たちの日常生活でも定期的な見直しやメンテナンスが欠かせませんが、



古文書整理でも同じことが言えるのです。



家文書整理に参加して

抽斗を開くと、重なり合っていた文書が二百年の眠りから

醒め、息を吹き返したように嵩が膨らんでいく。墨痕鮮やかな

これらの古文書には、二郷半のどのような歴史が記されているのか、心ときめく瞬間である。

青時雨 文書の筆あと 織々と

洋子



## 屋外展示はお手入れ必須！！

皆様はわくわくライブラリー入口の右手にある屋外展示をご覧になったことはありますか？ 屋根瓦や昔の郵便ポストなどを展示しています。これらの資料は芝地に直接置いて



展示しています。このため春から夏にかけてすくすくと伸びていく雑草や芝によって展示資料が見にくくなり、見栄えも悪くなってしまう

ます。そうした時に草刈をして、芝地の整備をするのも、文化財サポーターにとって大切な仕事の一つです。

## 編集後記

今年度も会報誌を発行し、第8号として皆様のお手元に届けることができました。

2019年は平成から令和へ、元号の改元という大きな節目の年となりました。郷土資料館の企画展示も改元にあわせ、平成をふりかえる展示を開催しました。

また、常設展示暮らしの中のお祭りでは夏のお祭りの開催日についてサポーターが一つ一つ訪ね歩いて調べました。

郷土資料館で行う展示などの業務の裏側では市内の旧家などに保管されている古文書の整理が続いています。実践を通して古文書の読解に汗を流しながら、これからもみんなで力を合わせて、コツコツ進めていく所存です。

